

発達と支援

～こんなことで困っていませんか～

- その場の雰囲気を読むことができない
- ジョークやユーモアが通じず、言葉どおりに受け止めてしまう
- 友達などの人間関係がうまくいかない
- 整理整頓ができず、よく物をなくす
- 周囲の音が気になって、なかなか集中できない
- 急に予定が変更になると、混乱してしまう

これらの特徴が日常生活に支障を及ぼすぐらい目立つ場合には、「発達障がい」が原因の可能性があり

ます。平成14年度の文部科学省調査では人口の約7.8%の人に何らかの支援が必要であるという結果が出ています。これを甲賀市に換算すると約7,300人になります。今まで発達に障がいがあるという「知的障がい」や「身体障がい」がある人しか知られていませんでした。しかし、他にもその何倍もの人が発達面での支援が必要であることが分かってきています。

「発達障がい」は外見からは分かりにくいのですが、生まれつき脳の機能に障がいがあり、そのために他の人たちと同じようにできなくて、周囲から誤解を受けることもあります。これは本人のわがままや努力不足ではなく、育て方や家庭環境によって引き起こされるものでもありません。「発達障がい」は子どもの間だけの問題ではなく、思春期、大人になっても症状が続くこともあります。

特に思春期は、心身が大きく成長し、確かな自我が芽生える時期です。その時期に「友達と同じように行動できない」、「仲間内で使う若者言葉が分からない」、「異性との接し方に戸惑ってしまう」、など「自分は普通ではないの?」と違和感を感じ悩んでしまう方もおられます。

その違和感が劣等感や自己否定的な気持ちにつながるように、周囲に支援を依頼することも大切です。

早めに学校もしくは発達支援室にご相談ください。

問い合わせ 発達支援室 ☎ 65-0735 ☎ 63-4085

甲賀市の文化財

44

東海道のお土産

—水口煙管—

もうすぐ夏休みが始まります。旅行にでかける方も多いのではないのでしょうか。旅先では名所観光や土地の名物を味わうことが主な目的ですが、その土地の名産品をお土産に持ち帰ることもまた旅の楽しみの一つです。

東海道土山宿やその街道沿いの名産品は、茶、かきが坂館やお六櫛などの名称で販売された木櫛が知られています。水口宿は広重の浮世絵に描かれたかんびようが有名ですが、水口歴史民俗資料館に展示している江戸時代のガイドブックには、水口宿の名物として「きせる・藤ごり・どせう」があげられています。

藤ごりは「水口細工」の名で知られた細工物で、箱や籠など、多種多様な製品があります。また「どせう」は泥鱈のことで、泥鱈汁として供されました。

煙管はタバコを吸うためのパイプの和名です。喫煙の風習はアメリカ大陸とその周辺に発祥し、大航海時代を経て日本にもたらされ、次第に日本人

問い合わせ

水口歴史民俗資料館

☎ 62-7141 ☎ 63-4737

の間に浸透していきました。タバコの喫煙方法は現在紙巻が主流ですが、伝来以降、近代までは刻んだタバコの葉を火皿に入れて燃焼させる煙管が愛用されていました。

煙管は国内の各地で製作され、諸国に名産地も現れました。寛永15年(1638年)刊の「毛吹草」には、煙管の産地の一つに水口煙管の名があげられています。水口煙管は天正5年(1577年)に豊臣秀吉が水口の権兵衛吉久に作らせたという伝承があります。

資料館に展示中の水口煙管は江戸時代後期の作ですが、その特徴である「水口吉久」の銘と桐の紋が刻まれています。

遠く離れた東京の遺跡からは江戸時代初頭の水口煙管が出土しています。東海道を通った旅人が水口煙管を買い求め、大事に持ち帰ったのでしょうか。



▲水口煙管